ソヴェト権力の当面の任務

論文『ソヴェト権力の当面の任務』の最初の案文
1918 年 3 月 23 日から 28 日のあいだに口述

＊〔事項訳注 P697〕

この最初の案文は、レーニンが 1918 年 3 月 23 － 28 日に速記させたもの。党の中央委員会で社会主義建設を展開する計画が審議されるのにそなえて著述されたものらしい。中央委員会議総会は 4 月 7 日にひらかれた。開会の辞でレーニンは、革命は「新しい時期」に際会していると強調した。中央委員会は、「現在の時機にかんするテーゼを作成して、中央委員会に提出する」ことをレーニンに委任した。その結果、レーニンは『現在の時機におけるソヴェト権力の任務についてのテーゼ』(『ソヴェト権力の当面の任務』のはじめの名称）を書いた。

第 10（終わりの部分）、11、12 、13 章は、本全集、第 27 巻、206 ～ 221 ページを参照。第 4 章の一部、第 5、6、7、8、9、10（はじめの部分）章は『レーニン全集』、第 5 版、第 36 巻にはじめて発表された。第 1、2、3、4（はしめの部分）章はまだ見つかっていない。

第四章

……

いまでは、この任務――もとよりそれは、まだ十分には果たされていないし、いつになっても完遂されたということはありえないものであるが――は、すでに、ソヴェト権力の任務のなかで首位を占めるものではなくなっている。最近のいくつかのソヴェト大会、とくにモスクワでの全ロシア大会は、勤労諸階級の圧倒的多数が、一般にソヴェト権力の側へ、とりわけボリシェヴィキ党の側へ、自覚をもって確固として移行したことを示した。いうまでもなく、いくらかでも民主的な政府にとっては、人民大衆を説得するという任務は、どんなときにもまったくなおざりにできるものではなく、逆に、それはつねに、統治上のもっとも重要な任務の一つをなすであろう。しかし、そうした任務が前面に出るのは、反政府党か、未来の理想の実現のためにたたかっている党にとってだけである。一方ではすでにツァーリズムのもとで、他方ではケレンスキー政府のもとで、ボリシェヴィキが、勤労大衆の積極的で意識的な分子の多数を自分の側にひきつけることができたのちには、われわれの党のまえに提起されたのは、権力を獲得し、搾取者の反抗を抑圧するという任務であった。説得することではなく、ロシアをかちとるという任務が第一の任務となったのである。1917 年 10 月の末からおよそ 1918 年の 2 月ごろまで、この戦闘的なあるいは軍事的な任務が首位を占めていた。先鋭（せんえい）できわめて激烈な闘争のなかで支配をかちとろうとしているどんな政党にとっても、そうした任務は、当然、首位に立たざるをえなかったからである。いうまでもなく、プロレタリアートの党にとって、搾取者の反抗を抑圧する任務は、とりわけするどく提起されている。なぜなら、ここでは、プロレタリアートの側に立とうとする勤労大衆に反対して、資本の力によっても、知識の力によっても、また、世紀にわたるといわないまでも、多年にわたる、統治の慣習と熟練によっても武装した、しかも相互に団結した、有産諸階級の代表者たちが、立ちむかってくるからである。1905 年の革命があたえたまだ忘れられない教訓と、現在の戦争があたえたこれよりもはるかに恐ろしい強烈な教訓の影響をうけて、ロシアで歴史的に生じた条件のおかげで、ボリシェ

ヴィキは、首都およびロシアのおもな工業中心地での権力獲得という課題を、比較的きわめて容易に解決することができた。しかし、田舎や中心地から遠く離れた地方では、とりわけ、君主制や中世の伝統をだれよりも強く固守している、比較的おくれた住民がどこよりもかなり多く集中していたロシアの諸地方――たとえば、カザック諸地方――では、ソヴェト権力は、軍事的な形態をとった反抗、十月革命から四ヵ月以上もたったいまやっと完全な終りに近づいている反抗に、直面しなければならなかったのである。今日では、ロシアにおける搾取者の反抗を克服し鎮圧するという任務は、おおむね完了した。ロシアはボリシェヴィキがその手におさめることとなった。だがこれは主として、――ドンの反革命的カザックの著名な活動家ボガエフスキーすら最近みとめたように――、人民の圧倒的多数が、カザックのあいだでさえも、自覚をもって、確固として、決然として、ボリシェヴィキの側に移ったためである。しかし、有産諸階級が、その経済的立場上おかれている特殊な条件は、彼らにたいして、消極的な反抗（サボタージュ）を組織するだけでなく、ソヴェト権力にたいする軍事的反抗の試みをふたたびおこなう、おのずからなる可能性をあたえている。だから、搾取者の反抗を抑圧する任務が、完遂されたとみなすことはやはりできない。しかし、いずれにしても、いまではこの任務は、大体においてすでに明らかに解決されており、後景にしりぞきつつある。ソヴェト権力は、この任務のことをかたときも忘れることはないであろうし、さまざまな政治的な、あるいは自称社会主義的な呼びかけや大言壮語にかられて、この任務の遂行をおろそかにしたりすることは、けっしてないであろう。このことは、あらかじめことわっておかなければならない。なぜなら、わが国ではメンシェヴィキもエス・エル右派も、反革命のもっとも活発な、ときにはもっとも厚かましい活動家としてふるまい、自分の党のレッテルや名称を後楯にして、反動的な地主政府にたいしておこなったよりもはるかに先鋭なたたかいを、ソヴェト権力にたいしておこなっているからである。たとえ搾取者の反抗がどのような党の旗じるしや一般むきのもっともらしい呼び名でおおいかくされていようとも、ソヴェト権力は、もちろん、彼らの反抗を抑圧するという任務の遂行をけっしてやめることはないであろう。しかし、反抗を抑圧するという任務は、現在ではもうおおむね完了しており、いまや国家を統治するという任務が日程にのぼっているのである。

首位を占めていた、住民大衆を説得するという任務から、また権力を獲得し、反抗する搾取者を軍事的に抑圧するという任務から、あらたに首位を占めようとしている、国家を統治するという任務へのこの移行が、われわれの際会している現情勢の主要な特性をなしている。ソヴェト権力の困難は、かなりの程度まで、人民の政治的指導者にも、勤労大衆のすべての自覚ある分子にも、この移行の諸特徴を明確に理解させることにある。なぜなら、階級の別なしに全人民を統治するという平和的な任務への移行、――内戦があちこちでまだ終っていないという情況、西からも東からも大きな軍事的危険がソヴェト共和国をおびやかしているという情況、最後に、戦争がかつてない破壊をもたらしたという情況のもとでは――、このような移行が、きわめて困難なことは、自明のことだからである。

第五章

いまやソヴェト権力のまえに第一級の任務として提起されるにいたった、国家を統治するという任務は、さらにつぎのような特性を示している。すなわち、卓越した意義をもつ

のが政治でなくて経済であるという、そうした統治が、いまや――おそらく文明諸国民の近代史上はじめて――問題となっているのである。ふつう「統治」という言葉は、とりもなおさず、またなによりも、主として政治的なあるいは純政治的な活動と結びつけられる。ところで、ソヴェト権力の基盤そのもの、その本質そのものは、また資本主義社会から社会主義社会への移行の本質も、政治的任務が経済的任務にたいして従属的な地位を占めるということにある。そして現在、とりわけロシアにおけるソヴェト権力の四ヵ月以上にわたる存立の実際的な経験ののちには、われわれにとってまったく明らかであるはずだが、国家を統治するという任務は、いまやなによりも、まず第一に、戦争がわが国にあたえた痛手を癒やし、生産力を回復し、生産物の生産と分配にたいする記帳と統制を組織し、労働生産性を高めるという純経済的な任務に帰着する、一言でいえば、それは経済再建の任務に帰着する。

この任務は、つぎの二つの主要な項目に分かれると言える。(1) 生産物の生産と分配とをもっとも広範で、あらゆる地域をつうじる普遍的なかたちで記帳し統制すること、(2) 労働生産性を向上させることである。これらの任務は、社会主義へ移行しつつあるどのような協同体あるいは国家のばあいでも、そのための基本的な経済的、社会的、文化的および政治的前提が、資本主義によって十分につくりだされているという条件のもとでのみ、解決することができる。大規模な機械制生産なしには、多少とも発達した鉄道網や郵便・電信網なしには、多少とも発達した国民教育機関の網の目なしには、どの任務も、系統的なかたちで全国的規模で解決することは、もちろんできない。ロシアは、このような移行のためのいくつかの初歩的な前提が存在するという情況のもとにある。他方、わが国では、このような前提のいくつかのものが欠けている。しかし、それらのものは、歴史と国際交流によってすでに以前からロシアと緊密な関係にある、はるかに先進的な近隣諸国の実際的経験から、比較的容易に借りてくることができる。　　注）……は本文中の表記。

第 42 巻『論文『ソヴェト権力の当面の任務』の最初の案文』P53～57

ポイント

これまで首位を占めていた、住民大衆を説得するという任務から、また権力を獲得し、反抗する搾取者を軍事的に抑圧するという任務から、国家を統治するという任務があらたに首位を占めようとしている。この移行が、われわれの際会している現情勢の主要な特性をなしている。人民の政治的指導者にも、勤労大衆のすべての自覚ある分子にも、この移行の諸特徴を明確に理解させなければならない。国家を統治するうえで、卓越した意義をもつのが政治でなくて経済であるという、そうした統治が、いまや問題となっているのである。資本主義社会から社会主義社会への移行の本質は、政治的任務が経済的任務にたいして従属的な地位を占めるということにある。国家を統治するという任務は、経済再建の任務に帰着する。この任務は、つぎの二つの主要な項目に分かれると言える。(1) 生産物の生産と分配とをもっとも広範で、あらゆる地域をつうじる普遍的なかたちで記帳し統制すること、(2) 労働生産性を向上させることである。

これらの任務は、社会主義へ移行しつつあるどのような協同体あるいは国家のばあいでも、そのための基本的な経済的、社会的、文化的および政治的前提が、資本主義によって

十分につくりだされているという条件のもとでのみ、解決することができる。

コメント

現代日本では「社会主義へ移行」する「ための基本的な経済的、社会的、文化的および政治的前提が、資本主義によって十分につくりだされている」。表面上の見た目を変えずに“国民の新しい共同社会”を実現することができる。セブンイレブンが今のままの姿で社会主義企業になる！

生産の科学的組織の最新の到達点の活用―例テーラーシステム―について

第八章　　P65 ～ 66　　注）……は青山の略

……

さきへすすもう。巨大資本主義は、住民大衆を搾取するという条件のもとでは、少数者の有産諸階級が勤労者を奴隷化し、彼らから労働と力と血と神経の追加量を搾りとる最悪の形態である、そういう労働組織の体系をつくりだしたが、労働組織のこの体系は、同時に、生産の科学的組織の最新の到達点であり、社会主義ソヴェト共和国が見ならわなければならないものであり、また、一方では生産にたいするわれわれの記帳と統制を実施するために、さらに他方では労働生産性を向上させるために、ソヴェト共和国が摂取しなければならないものである。たとえば、アメリカでひろく普及している有名なテーラー・システムは、まさにそれがもっとも乱暴な資本主義的搾取の最新の到達点であることで有名である。だから、この制度が労働者大衆のあいだで非常に大きな憎悪と怒りに出会ったことは、当然である。しかしそれと同時に、テーラー・システムのなかには、生産過程を系統的に分析し、人間労働の生産性の巨大な向上への道をひらく科学の巨大な進歩があることを、かたときも忘れてはならない。テーラー・システムの導入にともなってアメリカではじめられた科学的研究、とりわけアメリカ人たちのいう動作の研究は、一般に、はるかに高度な労働方法を、とりわけ労働組織を、勤労住民に教えこむことを可能にする巨大な材料をあたえている。

テーラー・システムのなかで否定的であったのは、それが資本主義的奴隷制という環境のもとで実施され、従前の賃金で労働者から二倍、三倍の労働量を搾りとる手段とされていて、労働時間は従来のままでも、人体に害を及ぼさずに、賃金労働者がこの二倍、三倍の労働量を提供する能力があることをまったく考慮に入れていない点にある。社会主義ソヴェト共和国は、簡単につぎのように表現できる課題に当面している。すなわち、われわれは、勤労住民の労働力になんの害もあたえずに、テーラー・システムと労働生産性の科学的なアメリカ式向上を、労働時間の短縮や、生産と労働の組織の新しい方法の利用と結びつけることによって、全ロシアにこの方式を導入しなければならないのである。いや、それどころか、勤労者が十分に自覚しているなら、彼ら自身によって正しく指導されるテーラー・システムの採用は、全勤労住民にとって必須の労働日を、さらに、かつ大幅に短縮するもっとも確実な手段となるであろうし、また、おおよそつぎのように表現できる課題――すなわち、すべての成年市民にとって、毎日六時間の肉体労働と四時間の国家統治のための労働という課題を、かなり短い期間のうちに実現するもっとも確実な手段となるであろう。

このような制度への移行には、きわめて多くの新しい熟練や新しい組織的機関が必要であろう。この移行が、われわれに少なからぬ困難をもたらし、このような課題の提起が、勤労者自身のあいだの若干の層の疑惑すら引きおこすこと、もしかすると反抗をも呼びおこすことは、疑いをいれない。しかし、確信してさしつかえないが、労働者階級の先進分子はこのような移行の必然性を理解するであろうし、また、経済から切り離されていた幾百万の人々が前線から帰還して、戦争のもたらした経済の混乱の度合いをはじめてすっかり目撃しているいまになって、やっと都市や農村にとって表面化した、国民経済の恐るべき混乱という事情によって、疑いもなく、そのような方向へ勤労者の世論を向けていくための基盤はつくられているし、以上でわれわれが大体の輪郭をえがいた移行は、いまソヴェト権力の側に立つにいたった勤労諸階級のなかの自覚をもってすすんでいるすべての分子によって、実践的課題として提起されるであろう。

社会主義建設に必要な組織能力

第九章　　P66 ～ 68

上記の性格の経済的移行は、ソヴェト権力の代表者にたいしても、指導者の任務の点でそれに応じた変化を要求する。まったく当然のことであるが、人民の大多数を説得するとか、あるいは権力をかちとって搾取者の反抗を抑圧するという課題が、前面に提起されていた情況のもとでは、指導者のあいだでも、大衆――ソヴェト権力は、この大衆と以前のどのような民主主義的権力形態よりもずっと緊密に結びついているが――にたいする扇動者がとくに前面に押しだされていた。まったく当然のことであるが、住民の大多数を説得したり、彼らを搾取者との苦しくて困難な軍事的闘争に引きいれたりするためには、とりわけ扇動者としての能力が必要とされた。反対に、さきに簡潔にえがいた課題、生産物の生産と分配にたいする記帳と統制という課題は、早くも実際的な指導者や組織者を前面に押しだす。これに応じて新しい条件と新しい任務への指導者の適応が不可能なばあいには、指導者たちの一定の再評価、彼らの一定の配置転換をおこなわなければならない。主として扇動者的任務に適応していた以前の時期の指導幹部にとっては、そのような移行がきわめて困難なことは、当然である。そのためいくたの誤りが避けられないのも当然である。だからいま、是が非でも、指導者にもソヴェト選挙人大衆つまり勤労被搾取大衆にも、ここに示した転換の必要性をそれぞれ理解させなければならないのである。

勤労被搾取大衆のなかには、扇動者としての才能よりもずっと多くの組織者としての才能や能力がある。なぜなら、これらの階級の勤労生活の環境全体が、共同作業をおこない、生産物の生産や分配にたいする記帳と統制をおこなう能力を、ずっと多く彼らに要求していたからである。反対に、以前の生活条件は、大衆自身のなかから扇動者または宣伝者の才能をもった活動家を、ずっと小さな規模でしか輩出させなかった。おそらくはこのために、われわれはいま、職業または天分からすれば扇動者や宣伝者である人々が、組織者の任務を引き受けることを余儀なくされ、そのような課題の解決のためには自分があまり適格でないことを、たえず納得することを余儀なくされ、労働者と農民の幻滅をも不満をも身にうけることを余儀なくされているのを、しばしば見うけるのであろう。……実践活動家の扇動者が彼にふさわしい重要な地位につけるように新しい能力を身につけることは

可能であり、疑いもなく、ロシア全土のソヴェト権力の代表者たちは、たいした苦労をしなくとも、そのような新しい能力を身につけることができるであろう。しかし、それには時間が必要であり、犯された誤りの実践的な経験だけが、転換の必要について明確な意識を生みだすことができ、新しい課題の解決に適した一連の人々を、いや、そのような人々の層すらも、つくりだすことができるのである。労働者と農民のあいだでの組織者的才能は、ブルジョアジーが想像し考えているよりも大きいにちがいないのだが、問題は、資本主義経済の環境のもとでは、そのような才能が発揮され、強化し、地歩をかちとる、どのような可能性もないということにある。

これとは反対に、もしわれわれが、新しい組織者的才能のある人々を国家統治の仕事へ幅広く参加させる必要性をはっきりと理解するならば、もしわれわれが――まさにソヴェト権力の諸原則から出発して――この分野で実践によってためされた活動家たちを系統的に輩出させるならば、われわれは、ソヴェト権力によって発展させられ、大衆のなかに投げこまれ、そして大衆を代表するソヴェト諸機関の成員の統制のもとで大衆によって実施されている諸原則を基礎として、短期間のうちに生産の実際的組織者の新しい層を生みだし、彼らに地歩をかためさせ、彼らにふさわしい指導的地位を占めるようにさせることができるであろう。　　注)……は青山の省略

第 42 巻『論文『ソヴェト権力の当面の任務』の最初の案文』

コメント

単なる扇動者ではなく、宣伝組織者へ、これが社会主義建設にも生かされる。

社会主義革命における主要な任務

ブルジョア革命では、勤労大衆の主要な任務は、封建制、君主制、中世的制度を絶滅するという、否定的な、あるいは破壊的な仕事をやりとげることであった。新しい社会を組織するという積極的な、あるいは創造的な仕事は、財産のある、少数のブルジョア的住民がやりとげたのであった。しかも彼らは、この任務を、労働者や貧農の抵抗にもかかわらず、比較的たやすくやりとげた。というのは、当時、資本に搾取される大衆の抵抗は、彼らが散りぢりばらばらになっており、またおくれていたために、非常に弱かったからであり、のみならず、無政府的にうちたてられた資本主義社会の基本的な組織力となったものが、ひろく、ふかく自然発生的に成長する国内市場と国際市場であったからである。

これとは反対に、あらゆる社会主義革命における、したがってまた、1917 年 10 月 25 日にわれわれがはじめた、ロシアの社会主義革命における、プロレタリアートとそれに指導される貧農との主要な任務は、幾千万の人人の生存に必要な物資の計画的な生産と分配とを包括する新しい組織的諸関係の、きわめてこみ入ったこまかい網をあみ上げるという、積極的なあるいは創造的な仕事である。このような革命は、大多数の住民、まず第一に大

多数の勤労者が、自主的に歴史創造活動をおこなってはじめて、首尾よく実現できるのである。プロレタリアートと貧農が、自覚、理想性、献身、不屈さを、十分に具現することができてはじめて、社会主義革命の勝利は保障されるであろう。われわれは、勤労被抑圧大衆が新しい社会の自主的な建設にもっとも活動的に参加するのを可能にする、新しいソヴェト型の国家をつくりだしたが、それだけではまだ困難な任務のわずかな部分だけを解決したにすぎない。主要な困難は経済の分野にある。すなわち、物資の生産と分配とのもっとも厳格な、また普遍的な記帳と統制とを実施し、労働生産性をたかめ、**実際に**生産を**社会化**することである。　　第 27 巻『ソヴェト権力の当面の任務』P242～243

1918 年 3 ～ 4 月に執筆

ポイント

あらゆる社会主義革命における主要な任務は、物資の生産と分配とのもっとも厳格な、また普遍的な記帳と統制とを実施し、労働生産性をたかめ、実際に生産を社会化することである。それは、幾千万の人人の生存に必要な物資の計画的な生産と分配とを包括する新しい組織的諸関係の、きわめてこみ入ったこまかい網をあみ上げるという、積極的なあるいは創造的な仕事である。このような革命は、大多数の住民、まず第一に大多数の勤労者が、自主的に歴史創造活動をおこなってはじめて、首尾よく実現できるのである。だから、プロレタリアートと貧農が、自覚、理想性、献身、不屈さを、十分に具現することができてはじめて、社会主義革命の勝利は保障される。

コメント

「記帳と統制」はバランスのとれた計画的な経済運営を実現するため、搾取を認めないため、横流しやヤミ経済を認めないために必要である。「記帳」は全国的なコンピューターシステムを活用して行えばよい。セブン・イレブンも立派なシステムを持っている。原材料の入手は、価格・性能・品質等を考慮して個々の企業(集団)が行えばよい。そして、生産の社会化、バランスのとれた計画的な経済運営は、by the people の思想を根本において「統制」されなければならない。